

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
アドバンスレッスン1-a											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	田熊知存			実務経験	有	職種	作編曲家				
担当教員紹介											
幼少の頃からエレクトーン・Jazzピアノを習い、コンクールで優秀な成績を収める。様々なアーティストのサポート演奏や楽曲提供を手がけており、幼い頃に影響を受けたDisney音楽のような歌心がありファンタジックな曲の制作を得意とする。											
授業概要											
1年で学んだ作曲編曲の技術を2年生ではさらにDAWの中でより精度を磨いた形で作品にしていく。ミックス・マスタリングにより深い考察と理解をする。エフェクトや波形編集においては、より音楽性が豊かに感じ取られるトラック制作への知識と技術を身につける。											
到達目標											
実践的なミックスが実現できるように、講義だけではなく各自の作品のDAWデータを見ながらできるだけ解説をする。昨今の音楽は音の仕上げにおいてより複雑でインパクトのある音楽が求められる。EQ、コンプ、リバーブなどの考え方をより深めることによって現代のニーズに応えられるミックスの技術を磨く。また生楽器のミックスではより自然な音にするという事がどういことなのかを学ぶ。エフェクトを考える意味合いも常に「音楽的」でありことを前提に工夫する思考を磨きたい。Real Dreamsや卒業制作に反映させる。											
授業方法											
一人ひとりの作品のプロジェクトファイルをモニタリングしながら、それぞれのトラックにしかけてあるプラグインエフェクトや音色に対するアプローチを確認。考え方をチェックしてより効果的なテクニックがないかを考える。またミックスやマスタリングに関してはあらためて考え方を講義する。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
何よりも出席重視という事。そして自分以外の人の作品にも興味と考察を深められるようにしたい。そのことで多くのジャンルやスタイルに対する対応力が着く。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	ミックスセッションのセットアップについて設定を理解する 他作業工程を学ぶ										
第2回	各トラックへの設定を学ぶ トラックごとの名前・色などの設定方法を学ぶ										
第3回	ミックスワークフローを理解する バス・音量バランス・パンニングの調整を学ぶ										
第4回	オーディオプロセッシングを理解する EQイコライジングについて技術を習得する										
第5回	ダイナミクスコントロールについて理解する										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
アドバンスレッスン1-a	
第6回	オーディオデータの編集に関してその作業方法と効果を理解する
第7回	トラックごとのプラグインの方法とその効果を理解し習得する
第8回	オートメーションの入力 書き出し方法を習得する
第9回	マスタリングの意味を理解する ミックスとの違いを把握し作業工程を習得する
第10回	音声の修復 雑音ノイズ等の修復作業についてその方法を習得する
第11回	ステレオエンハンサーについてその効果と意味を理解する 音像調整の方法を習得する
第12回	イコライザーの効果と方法を習得する
第13回	エフェクト〜コンプまで
第14回	ミックスダウン・トラックダウン・マスタリングまでを使い既存または自身の音源を制作する
第15回	各自作品発表 確認

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
アドバンスレッスン1-b											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	田熊 知存			実務経験	有	職種	アレンジャー				
担当教員紹介											
幼少の頃からエレクトーン・Jazzピアノを習い、コンクールで優秀な成績を収める。様々なアーティストのサポート演奏や楽曲提供を手がけており、幼い頃に影響を受けたDisney音楽のような歌心がありファンタジックな曲の制作を得意とする。											
授業概要											
ポートフォリオ制作に向け、各個人が必要とする能力を習得する。 作編曲・ミックス・音作りなど、多方面からのアプローチにより、楽曲のクオリティー向上を目指す。											
到達目標											
各自が目指すクリエイター像により高いレベルで近づく。 しっかりした裏付けに基づく知識と技術を身につけ、より高レベルなポートフォリオの作成に反映させる。											
授業方法											
見本のプロジェクトファイルを参考にしながら説明と実践を行っていく。 各自、PC上で見本データの解析を行い、自作曲へ落とし込む。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
PC上でのプロジェクトファイルを用いた授業となるため、自分で自由に見本データを改変してどのような効果が得られるのかを積極的に探っていくことを推奨する。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	chord symbol=chord scale であることの確認と、基礎的なchord scaleの確認										
第2回	approach note の種類を整理、low interval limit 判定時の注意点を確認										
第3回	グレード9, 12, 17に準じる										
第4回	音程ごとに2声ハモの使い分けを行う。4 way close voicing の習得										
第5回	drop 2/ drop 3 を習得										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
アドバンスレッスン1-b	
第6回	drop 2&4 を習得
第7回	4声の spread voicing を習得
第8回	808とシンセベースについてそれぞれの打ち込みと音作りについて学ぶ
第9回	コードシンセの打ち込み方や音作りの方法について学ぶ
第10回	リードシンセの打ち込み方や音作りの方法について学ぶ
第11回	サイドチェインの用法や使い方を学ぶ
第12回	音を効果的に重ねて、新たな音色を作り出す方法を学ぶ
第13回	loop 素材や one shot 素材を使い、リズムや曲に色をつけることを学ぶ
第14回	ミックスの基本的な考え方、全体の捉え方について学ぶ
第15回	実際に素材をミックスしてみる

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
アドバンスレッスン1-c											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	甲原 圭			実務経験	有	職種	アレンジャー				
担当教員紹介											
クラブミュージックを主軸とした作曲家。アーティストへの楽曲提供からCM音楽、ゲーム音楽などボーダレスに活躍している。また、自身もアーティストとして活動も行っている。											
授業概要											
近年の楽曲と映像がセットで考えられるようになってきたことにより、映像に対してどのようなアプローチで楽曲を作ることができるかが音楽を仕事にしていくなかで重要視されるようになってきている。本授業ではより実践的に映像音楽についての考え方や制作の方法を学び、現代の音楽産業にアジャストした学生の育成を目的とする。											
到達目標											
映像音楽への理解を深め、映像に対する楽曲のアプローチの仕方を会得する。 動画の動きと音楽的な動きを同期して考えることができるようになる。 上記に加え、音像の処理を的確に行うことでより立体的で臨場感のある映像とリンクした楽曲の制作ができるようになる。											
授業方法											
講義と実習を5：5で行う。インプットとアウトプットを繰り返して技術を洗練していく。 新たな考え方や技術を得るために定期的に課題を出し、講師や学生間での講習会を行う機会を設ける。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
前期の分析発表会では他人の発表もこまめにノートに記録する。分析結果をもとにグルーピング基準を検討し制作すること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	授業内容の概要・スケジュール等告知										
第2回	音と映像の関連性について										
第3回	アイキャッチに対して音楽を付けてみる 1										
第4回	アイキャッチに対して音楽を付けてみる 2										
第5回	アイキャッチに対して音楽を付けてみる 3										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
アドバンスレッスン1-c	
第6回	効果音作成 1
第7回	効果音作成 2
第8回	効果音作成 3
第9回	1 5 秒の映像に対して音楽を付けてみる 1
第10回	1 5 秒の映像に対して音楽を付けてみる 2
第11回	1 5 秒の映像に対して音楽を付けてみる 3
第12回	アニメーションに対して効果音と音楽を付けてみる
第13回	アニメーションに対して効果音と音楽を付けてみる
第14回	アニメーションに対して効果音と音楽を付けてみる
第15回	発表会

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
アドバンスレッスン1-d											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	甲原圭			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
クラブミュージックを主軸とした作曲家。アーティストへの楽曲提供からCM音楽、ゲーム音楽などボーダレスに活躍している。また、自身もアーティストとして活動も行っている。											
授業概要											
国内における音楽制作環境の多くは、プライベートスタジオと呼ばれる自宅などを中心としたDAW環境に移行されている。1 年次では、限られた制作環境の中でいかにクオリティの高い作品を生み出すかについて実践的なアプローチを習得してきた。2 年次では、ミックスアプローチをさらに深く掘り下げて、より立体的な音場作りを習得する。また、録音時の集音方法によるサウンドの違いを理解し、実践的なミックスに取り入れる。さらにマスタリングの基礎を学び、完全なパッケージとしてクライアントの要望を的確に捉え、作品のクオリティをさらに高める方法を習得する。											
到達目標											
楽曲制作のポストプロダクションの過程となるミックスの構造を理解し、自身の楽曲におけるミックスアプローチの向上、さらに録音した音をより立体的な音場作りを行う方法の習得を目指す。 音作りにおいて重要となるエフェクト効果の知識を深め、楽曲に合わせたサウンドメイクを行うこと、マスタリング基礎知識を学び、ミックス・マスタリングのプロセスを経て、自身で作品をパッケージ化するまでの方法を習得することを到達目標とする。											
授業方法											
この授業では、1 年次に習得したミックス技術をさらに深めるとともに、コンプレッサーやイコライザーなどのダイナミクス系エフェクトプラグインやディレイやリバースなど空間系エフェクトプラグインの使い方を理解し、自作曲にフィードバックする技術力を身につける。最終的には一般に流通している音源と差異のないレベルの作品を仕上げることを目的とする。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
授業の際は筆記用具、ノート（五線紙もあることが望ましい）、データを記録する外付けHDD（SSD）、ヘッドフォン（必要に応じてミニステレオ標準フォンプラグの変換）を毎回用意すること。毎回の授業内容はノートに採り、自身で繰り返し確認できるようにする。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	修了制作作品を振り返り、レコーディングおよびミックス面からのアプローチを再考する										
第2回	代表的なエフェクターの使用方法を確認する										
第3回	代表的な洋楽を聴き、各楽器の定位を理解し図形化する										
第4回	代表的な邦楽を聴き、各楽器の定位を理解し、図形化する										
第5回	コンプレッサーの使い方を理解する										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
アドバンスレッスン1-d	
第6回	音色変化のためのコンプレッサーの使い方を理解する
第7回	マスタートラックにコンプレッサーをインサートし、音圧を稼ぐ方法を理解する
第8回	バストラックの使用法 1
第9回	バストラックの使用法 2
第10回	倍音について正しい知識を身につける
第11回	各楽器の周波数特性
第12回	マスタートラックでの調整
第13回	ボリュームとパンのみを使用し狙った定位に楽器を配置する
第14回	コンプレッサーをイコライザーを使って狙った定位に楽器を配置する
第15回	インピーダンスとは何かについて適正な知識を身につける